



牛乳パックを使ったドングリ苗の育て方



1. ドングリをひろおう

- ①森に出かけて、かごやビニール袋にドングリを拾ってみましょう。
- ②ドングリは、大きくて重いものを選びます。葉っぱのかげで小さな白い根をだしているものも、大丈夫。白い根を痛めないように持ち帰ります。
- ③集めたドングリを水につけて選別します。
(バケツに水をはり、ドングリを入れて沈んだものを選びます。30時間水に沈めておけば、ドングリの中にいる虫にドングリが食べられるのをふせぐことができます。)

2. 牛乳パックのポット苗の作り方

- ①1リットルの空の牛乳パックの底に4ヶ所7～8mmの穴を開け、側面にもそれぞれ10ヶ所くらい釘や錐で穴を開けます。
- ②赤玉土（小粒）と腐葉土を2：1の割合でよく混ぜて用土をつくります。
- ③できた用土を牛乳パックに15cmほどの深さになるように、軽くとんとんとたたきながら詰めます。その上に、ドングリを1個または2個を横において、深さ3cmぐらいになるよう土をかぶせます。
- ④じょうろでたっぷり水をあたえ、湿度を保つために枯葉や切りワラをかけます。
- ⑤できあがったポットを雨の当たる木陰などに、防草シートやビニールシートを敷いた上に並べます。倒れないように竹や棒の支えを立て、ひもでしばっておきます。
- ⑥来年の春、芽がでてくるまでそのまま置きます。ドングリは、冬のあいだも根をのぼして春の誕生を準備しています。



3. 苗の育て方

- ①4月から5月にかけて双葉が開きます。
- ②長い間降雨がないときには、水やりを朝か夕方に時々行います。直射日光の当たるところでは、小さな苗はうまく育つことができません。
- ③葉につく虫（アオバネサルハムシなど）に気がいたら、毎日手で取り除きます。
- ④長期の育苗では、牛乳パックがボロボロになります。植えた時と同じように、あたらしい用土を用意して、あたらしい牛乳パックに植え替えます。晩秋から早春にかけて、根の活動が少ない時期に、植え替えるのがベストです。なお、牛乳パックからはみ出した根は、植え替え時に中に入れます。
- ⑤2、3年苗の高さが50cm以上になったら、山に植えることができるようになります。